



あ

あき
秋あげに

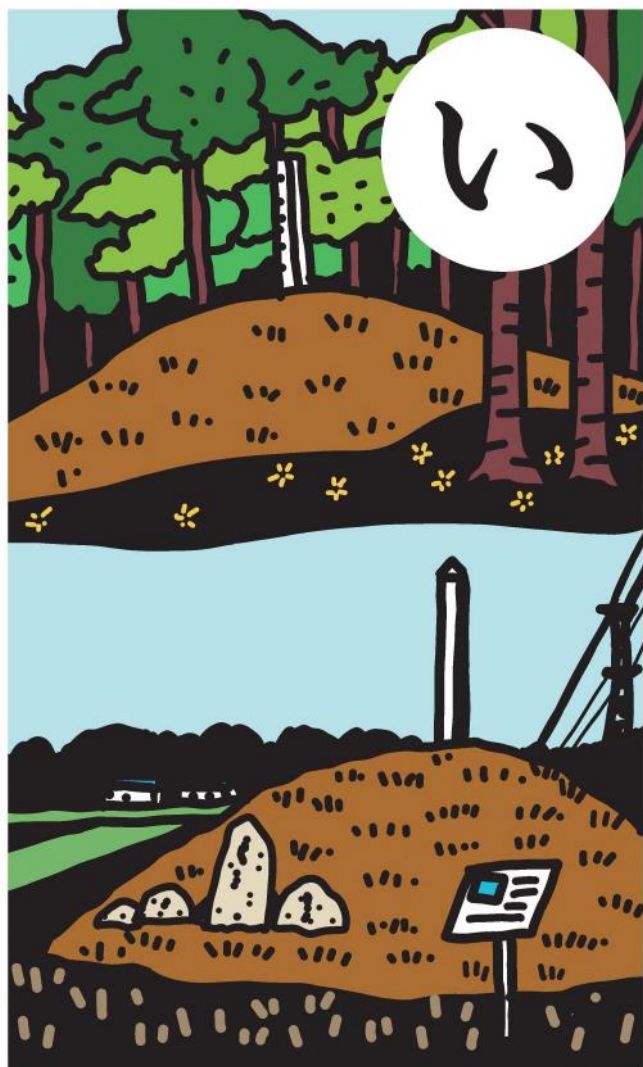
ちようみん

町民にぎわう

ふるさとまつり

ふるさとまつり

稲刈りが終わったころ、
総合グラウンド、体育館でふるさとまつり
が行われ、農産物品評会や幼小中学生の
作品発表会なども開催された。



い

いち
里塚

くま
熊町と

ご
五郎四郎の

に
二ヶ所あり

一里塚

一里（3.6km）おきに左右対称に
土を盛った塚。江戸時代に作られ、
町内には二ヶ所が現在も残っている。



う

海開き

みんなで引いた
地引き網

地引き網

昔は海を囲むように熊川の浜で網を引き、
大量のイワシなどをとった。
海開きにはそれを再現していた。



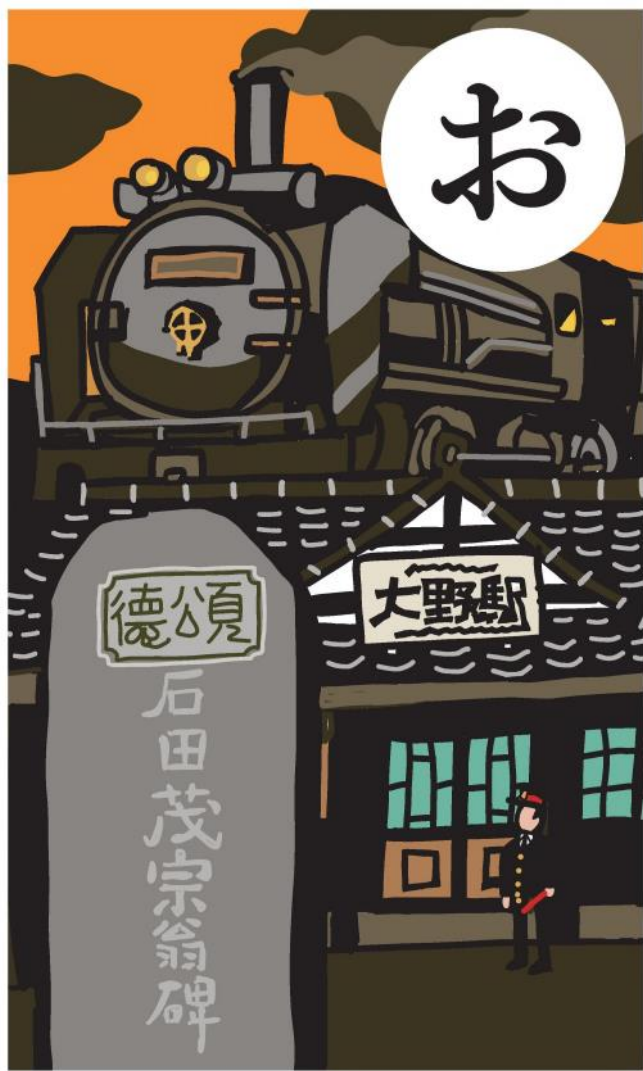
え

えいえいおー！

みんなで頑張る
町民体育祭

町民体育祭

各行政区の老若男女が一同に会し、
消防団競技や玉入れ、リレーなど行政区が
一丸となって競い、大いに盛り上がった。



お

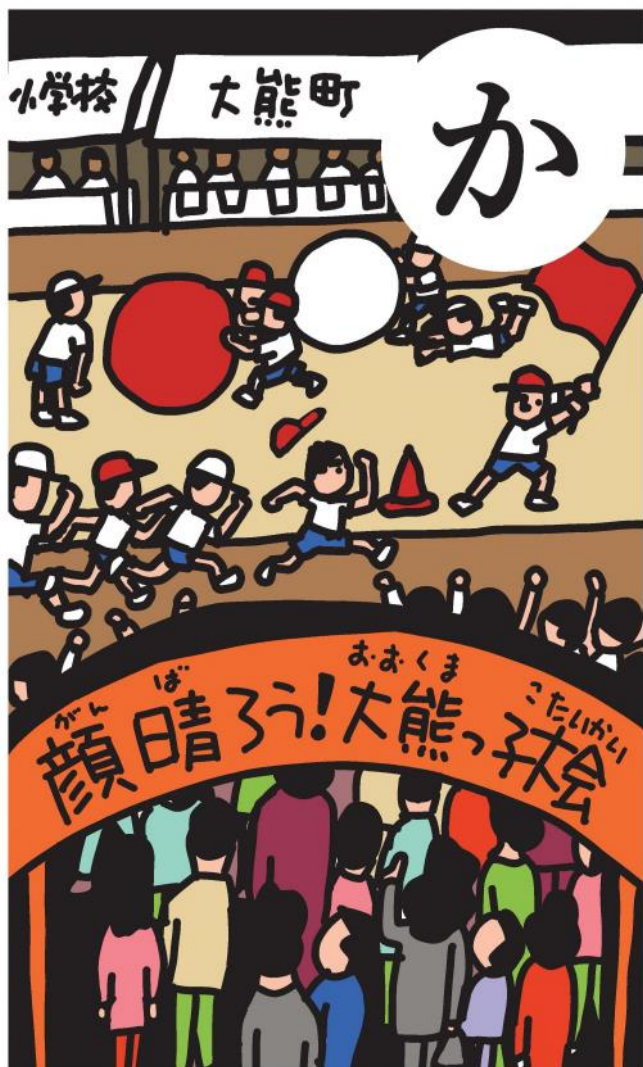
おおのえき
大野駅を

尽くしたり

いしだもそう
つくるに石田茂宗

石田茂宗

明治22年から名誉村長として、18年間奉仕し
大野駅の誘致や大川原～大野駅までの
道路を作り、村の発展に寄与した。



か

がんば
顔晴ろう!

おおくまこ
大熊っ子

みらいかがや
未来へ輝け

顔晴ろう! 大熊っ子大会

震災後、会津若松市で再開した
幼・小・中学校合同で開催されている
合同運動会。



き

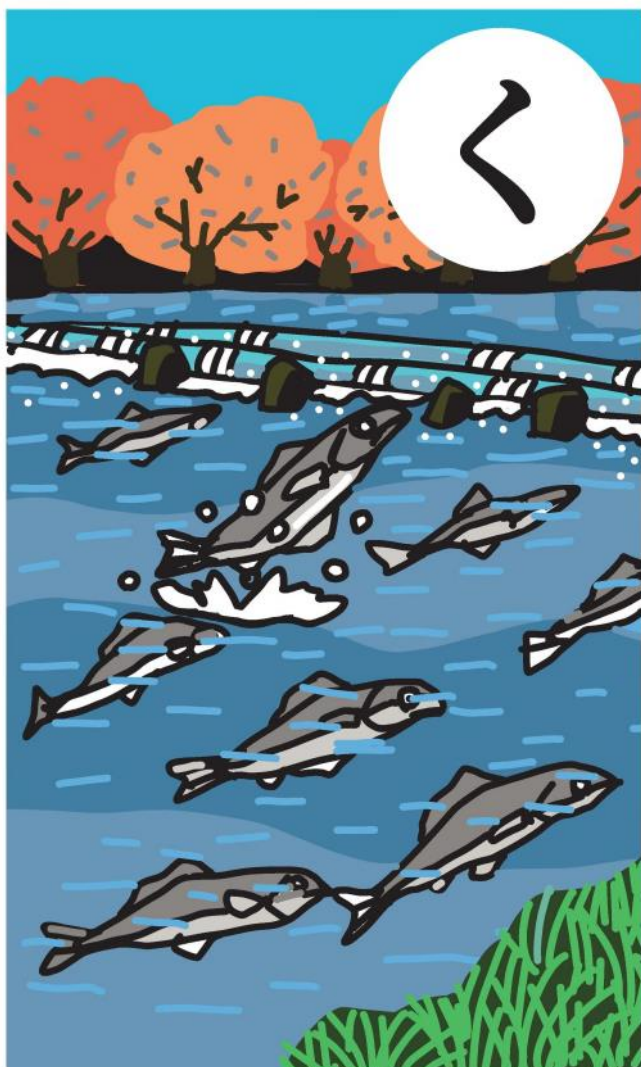
騎馬隊の

ひづめの音も

勇ましく

ミニ野馬追

標葉郷の郷士として出陣し、凱旋した騎馬武者は駅前通りでの御行列の後、児童公園でミニ神旗争奪戦を行った。



く

熊川を

元気

鮭のむれ

熊川の鮭

熊川でふかした鮭が、3～4年後に成魚になって再び産卵のために熊川に帰ってくる。



け

おおのくままちようちえん
大野・熊町幼稚園

ちびっこたち

げんき
元気いっぱい

大野・熊町幼稚園

町内には大野幼稚園と熊町幼稚園の二つの幼稚園があり、園児達がいつも元気にお遊戯や園庭で遊んでいた。



こ

ワッ
ッ
シヨイ
ワッ
ッ
シヨイ

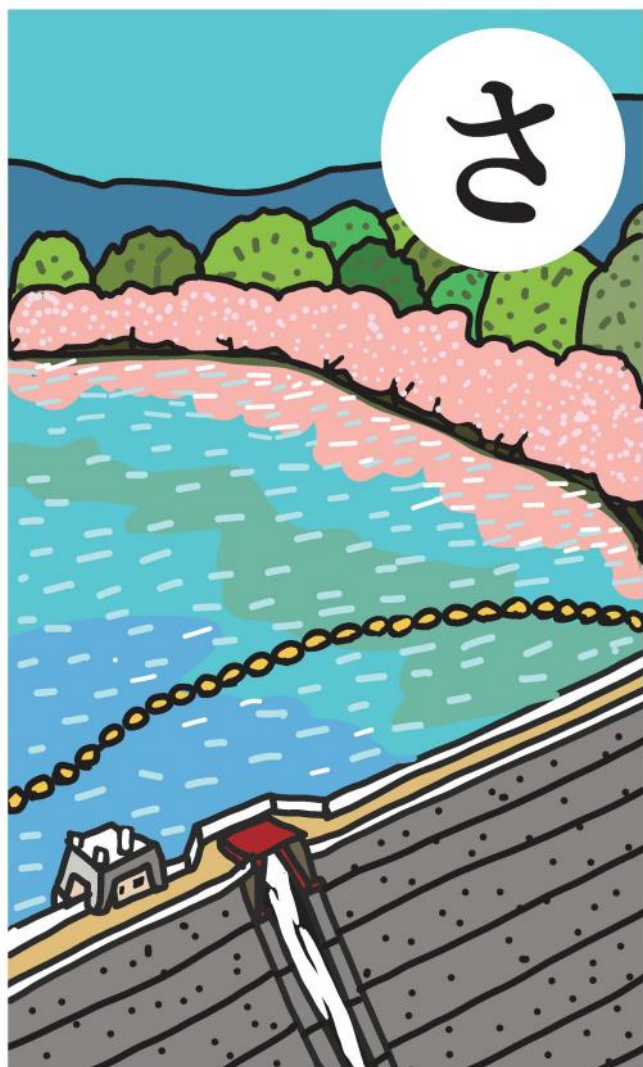
しょうとくたいしさい
聖徳太子祭

こ
子どもみこし

聖徳太子祭

明治時代以降から、桜の花の咲く頃に大野公園を中心に盛大に行われていた祭。

さ



さ

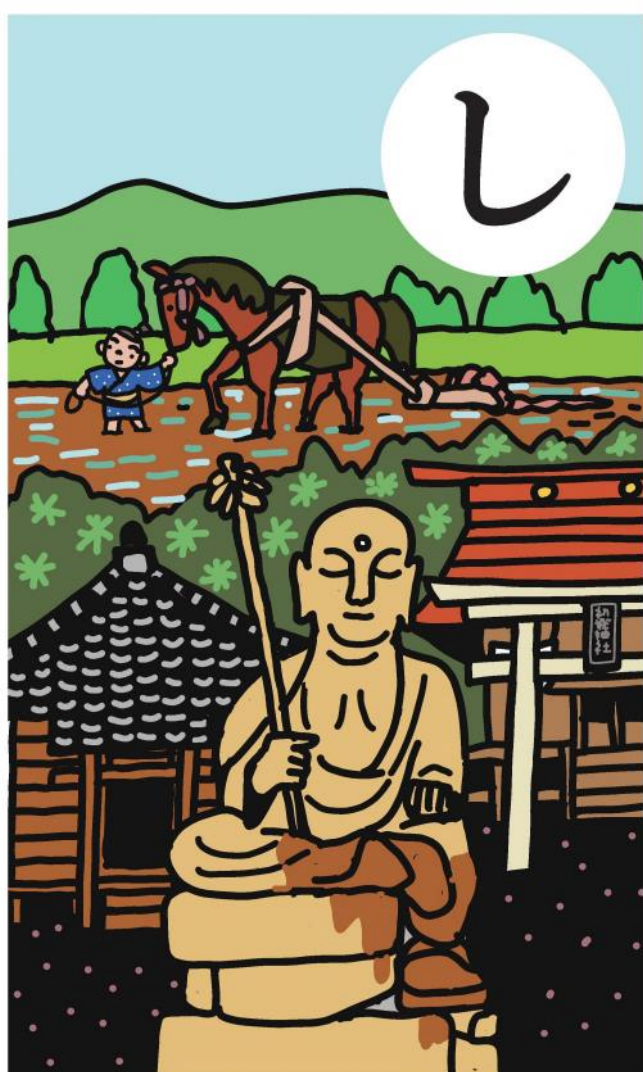
坂下^{さかした}の

ダム湖^こに映^はえる
桜^{さくら}かな

坂下ダム

坂下ダムは日隠山の登山口であり、釣りの名所でもあった。また、四季を通じて多くの町民が訪れた。珍しいこの桜が咲き、しだれ桜はみごとである。

し



し

初^{しょ}發^{はつ}神^{じん}社^{じゃ}

民^{みん}話^わ

「はなどり

地^じ蔵^{ぞう}さん」

民話「はなどり地蔵」

熊町初發神社境内に建つ地蔵堂の中にある地蔵。お地蔵さんが田起こしのため子供の姿になり馬の鼻どりを手伝ったという言い伝えがあり、民話にもなっている。



す

スポーツで

闘志揺るがす

大熊スポーツ少年団

野球などの球技や、柔道などの武道、
またランニングといった
様々なスポーツが盛んであった。



せ

先人の

暮らし学べる

伝承館

図書館と併設されている。移築された
古民家での生活風景が再現されていて、
農具や生活雑器も展示されていた。



そ

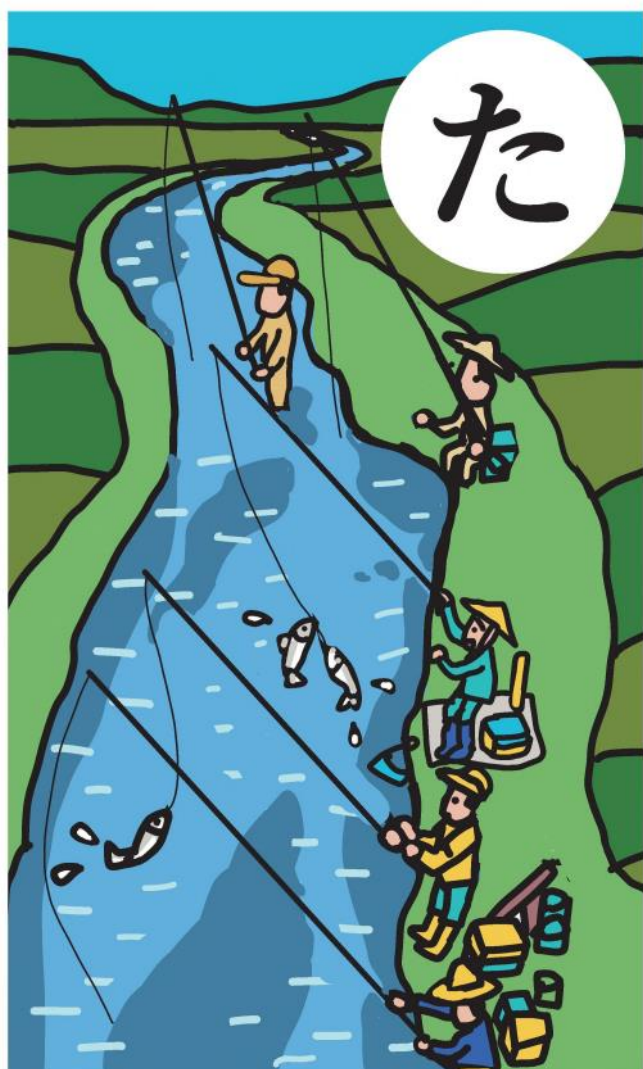
爽快な

汗を流せる

スポーツセンター

スポーツセンター

県内トップクラスの敷地面積を誇る総合体育館や、武道館、総合グラウンドなどがあり、多くの町民が汗を流していた。



た

立ち並ぶ

鮎釣る竿の

滑津川原

滑津川原

中屋敷と大川原を源流とする熊川の中流。鮎釣りの解禁日には、腕に自信のある釣り人たちが竿を振っていた。



ち

ちよう じゃ はら
長者原

じゃんがら念仏
たい こ おど
太鼓踊り

じゃんがら念仏太鼓踊り

大熊町指定無形文化財。
一年の間に亡くなった新盆の家々を
まわり念仏踊りで供養する。



つ

つなごうよ
おおちゃん
くうちゃん
まあちゃんを

おおちゃん・くうちゃん・まあちゃん

大熊町公式キャラクター。
鮭や梨、キウイを持っている。



て 伝^{でん}統^{とう}を

だいじ
大事^{だいじ}にしてます

ちご
稚児^{ちご}鹿^{しし}舞^{まい}

熊川稚児鹿舞

大熊町指定無形文化財。
熊川諏訪神社境内で行われた四匹鹿舞い。
四匹鹿舞いは全国的にも極めて珍しい。



と 特^{とく}攻^{こう}隊^{たい}員^{いん}

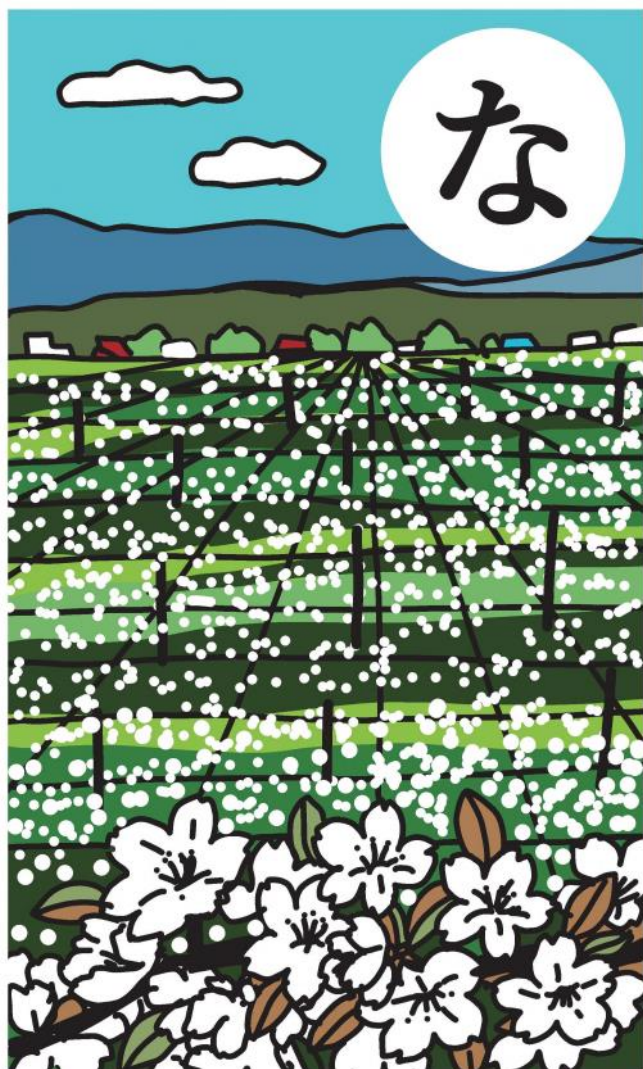
そだ
育て^{そだ}し

おとぎわ
夫沢^{おとぎわ}飛^ひ行^{こう}場^{じょう}

夫沢飛行場(正式名称：磐城飛行場)

現在、福島第1原子力発電所がある場所。
太平洋戦争中は
特攻隊員養成の飛行場であった。

な



な

梨の花

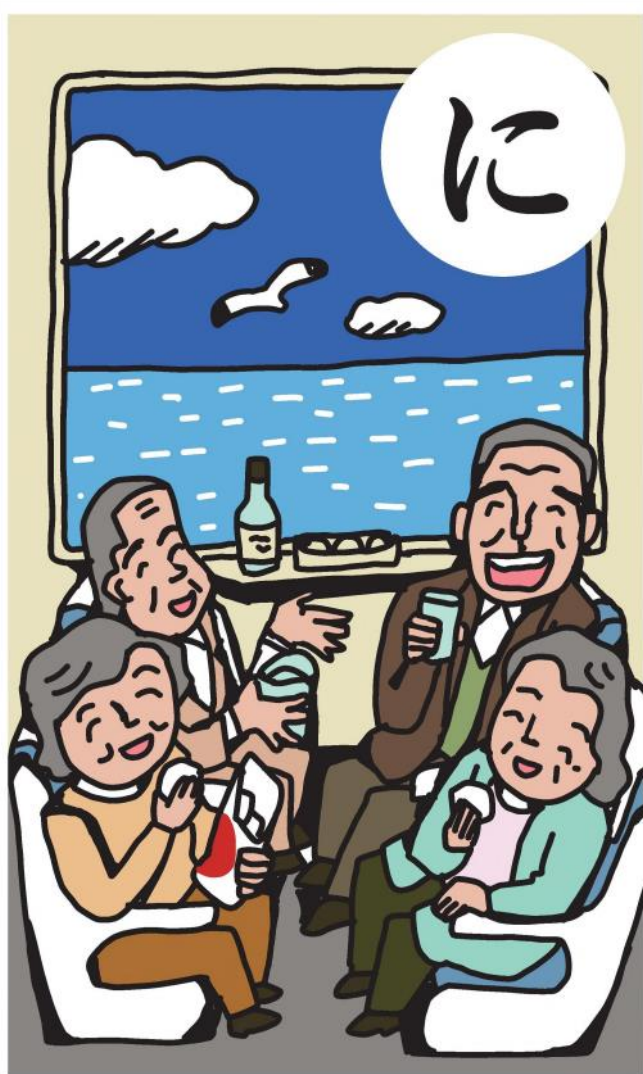
白いじゅうたん

町染める

梨の花

大熊町の基幹農業であった梨。春になると、
梨の花が町内を白く染めて、見る人を
楽しませていた。町の花としても指定されている。

に



に

賑やかな

笑いが絶えない

町民号

町民号

大野駅から出発した1泊2日での町民親睦旅行。
震災前の年に開催された28回目の
富士山付近への旅行が最後である。

ぬ



ぬ

ぬく
温もりの

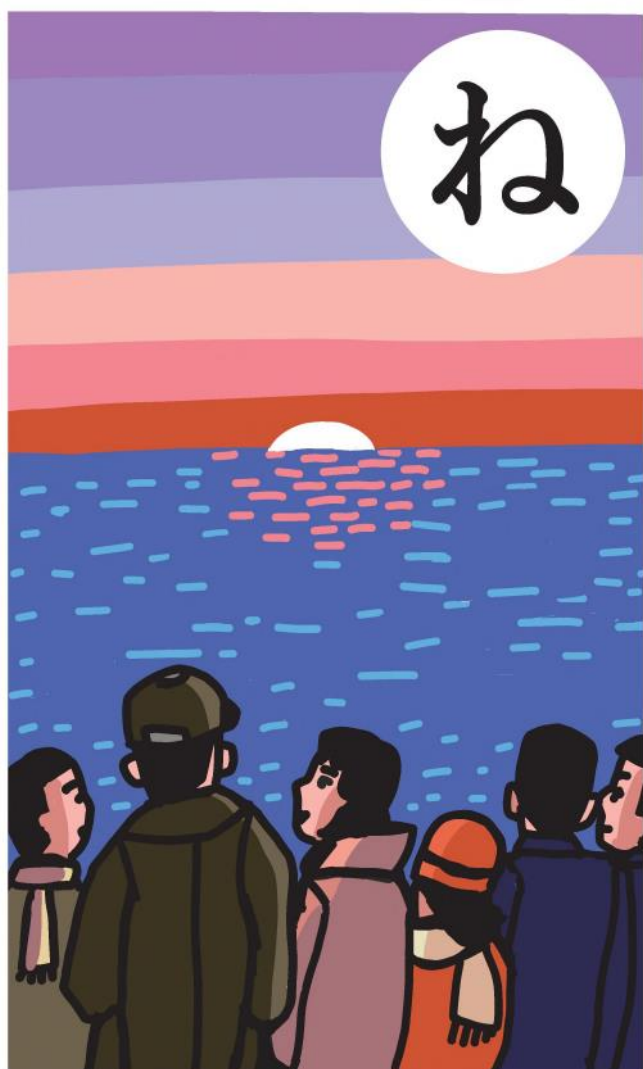
しょうてんがい
商店街

my
ベアカード

myベアカード

商店街で買い物をする時に
使用できるポイントカード。

ね



ね

ねむ
眠たさと

さむ
寒さこらえた

はつひ
初日の出

大熊町の初日の出

熊川海岸、馬の背、展望台などで
初日の出を眺めた。

の



の

農繁期^{のうはんき}

結の貸し借り^{ゆいかかり}

助け合う^{たすあ}

結(ゆい)

農作業を中心に隣近所が互いに手伝う事。
田植え時にはカツオの焼き浸し、
お煮しめ、凍みモチなどがふるまわれた。

は



は

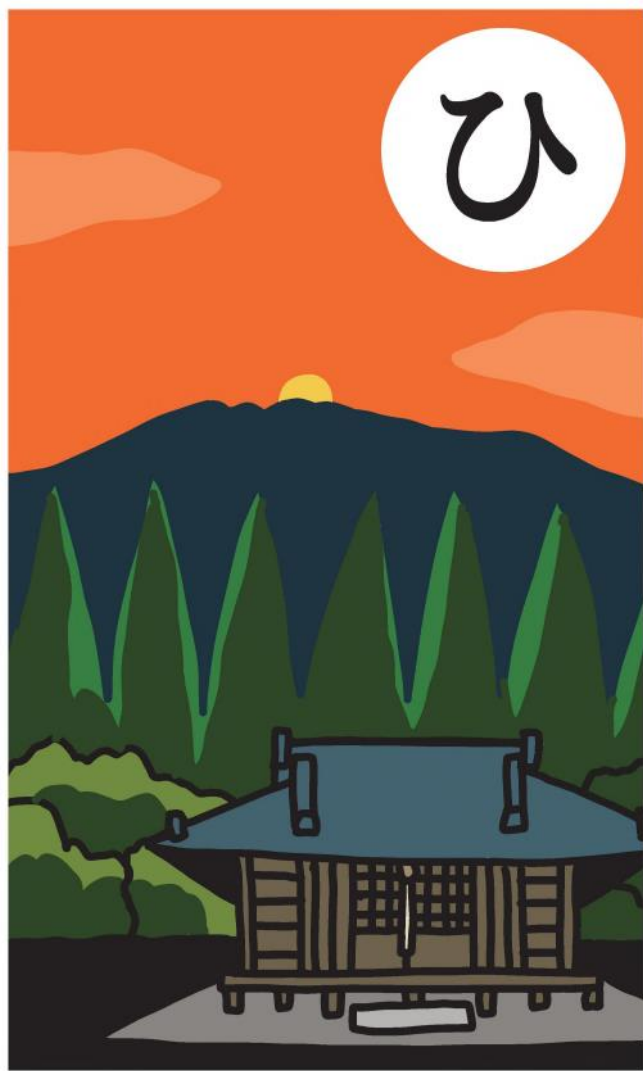
藩公の^{はんこう}

湯治場だった^{とうじば}

玉の湯温泉^{たまゆおんせん}

玉の湯温泉

相馬領内で唯一の温泉だった。
玉林坊と金五郎（山師）が発見した。



ひ

ひがくれ
日隠山を

みわたりじんじゃ
海渡神社から
みゆうひ
見る夕日

日隠山・海渡神社

小入野海渡神社からは、
春分の日、秋分の日だけ日隠山山頂に
沈む夕日を見ることができる。



ふ

ふるさと
故郷の

おも
想いを描く

おおくま・

おらほのカルタ

おおくま・おらほのカルタ

大熊町の名所・歴史・建物・
風土・町民の故郷への
想いをこめたカルタ。



へんじょうじ
遍照寺
おおくままち
大熊町には
てら
寺ひとつ

遍照寺

藩制時代からのお寺。真言宗（熊川）
明治時代には、熊町小学校の前身となる
寺子屋があった。



ほたるま
蛍舞う
よる
夜の
おがわ
小川へ
かぞくづ
家族連れ

大熊町の蛍

昔は町内各地でホタルが見られた。
震災後は6月中旬～下旬に大川原の
頭森公園付近でゲンジ・ヘイケボタルの
群舞が見られる。

ま



ま

薪^{まき}背^せ負^おう

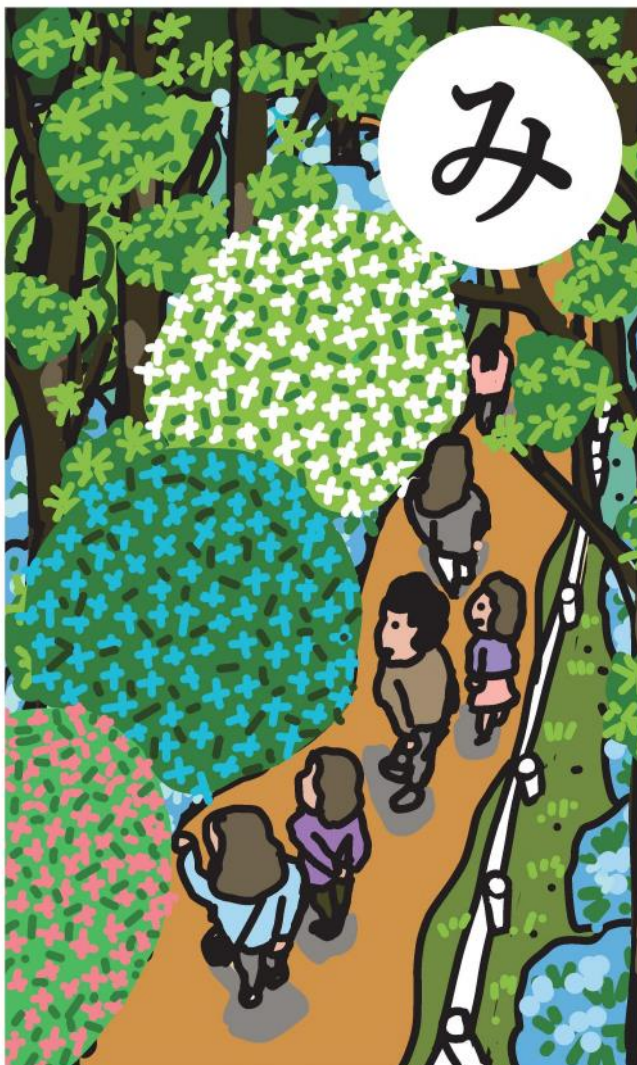
金^{ぎん}次^じ郎^{ろう}像^{ぞう}立^たつ

大^{おお}野^の小^{しょう}

大野小学校の二宮金次郎像

大野小学校にあった像。児童達は先生から、金次郎のように家の手伝いと勉学に励むよう指導されていた。

み



み

三^{みつ}ツ^{もり}森^{もり}山^のの

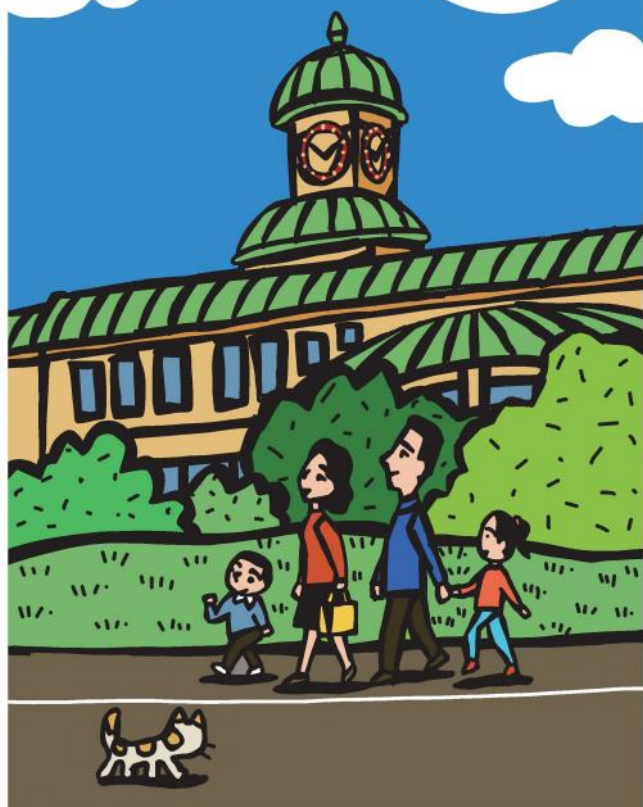
ア^あジ^じサイ^{さい}小^こ路^{みち}

懐^{なつ}か^かし^しい

三ツ森山の小路

野上の三ツ森山自然公園へと続く道。6月には約4000本のアジサイが咲いている。

む



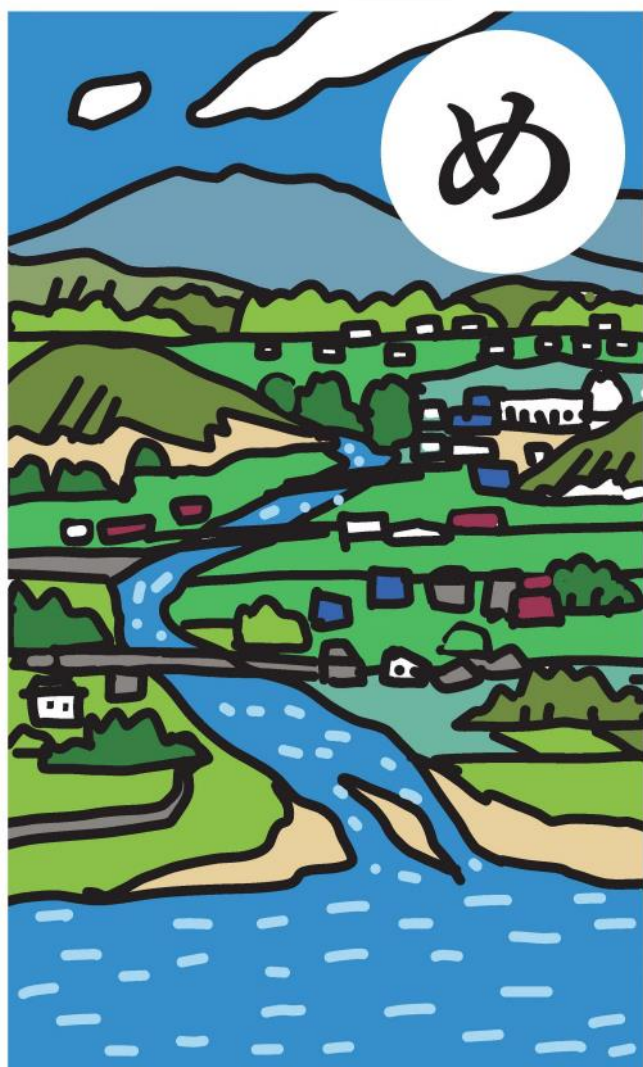
む

向かう図書館
高く大きな
時計台

大熊図書館

町の中心部にあった図書館。
その象徴となっていたのが時計台で、
夜になるとライトアップされ、幻想的であった。

め



め

恵まれた
自然豊かな
大熊町

大熊町

大熊町は東に太平洋、西に阿武隈高地が
なだらかに走り、自然豊かで米作りと
果樹栽培を主とする農業が盛んな町。

も



も

モリアオガエル

ことし
今年も育つ

まんえもん

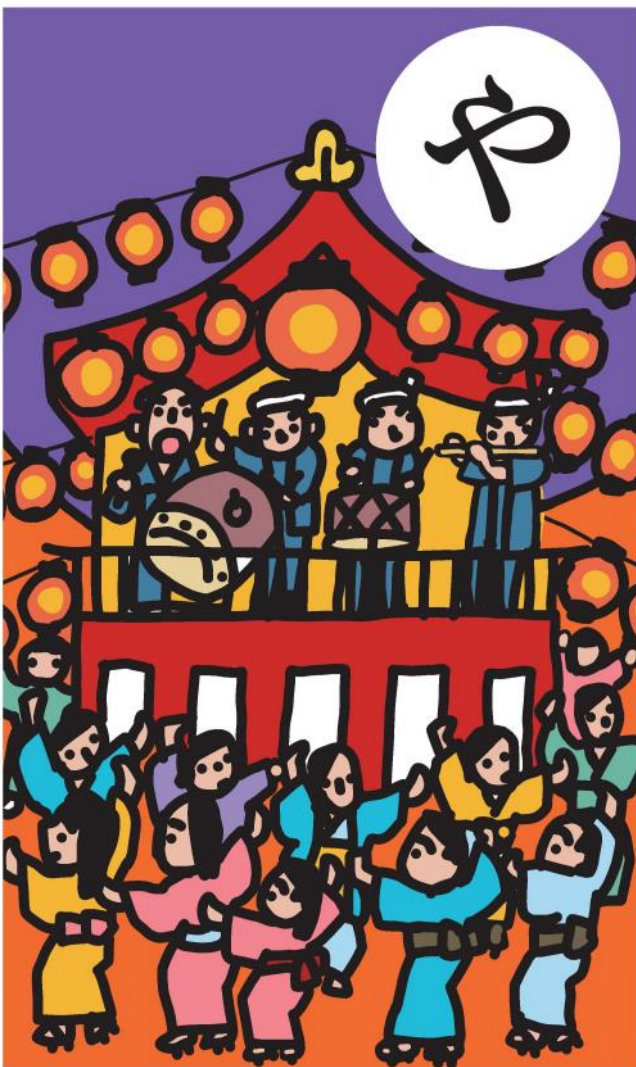
万右工門の池

いけ

万右工門の池

周辺の山々にはモリアオガエルが生息し、毎年池の周りの木々に産卵した卵塊が見られる。

や



や

やぐら太鼓

だいこ

ひびきみんなで

ぼんおど
盆踊り

大熊町の盆踊り

お盆前から各地区で盆踊りの練習が始まり、遠くからの笛太鼓のかすかな音色が聞こえ、当日が待ちどおしかった。

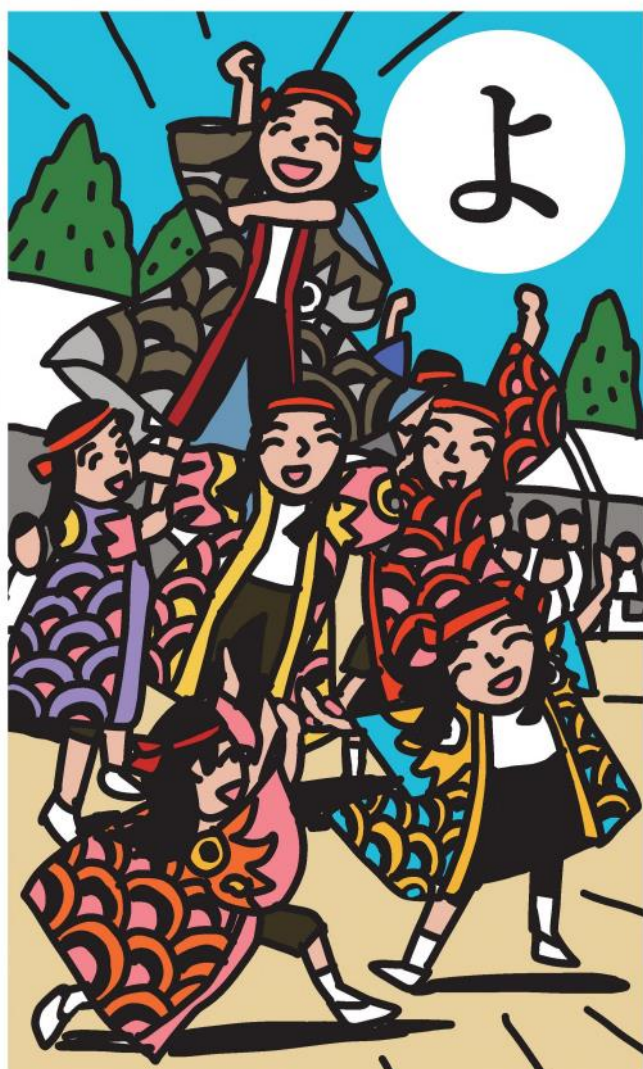


ゆ

ゆつたりと
ドライブしようよ
にいぱっぱ

にいぱっぱ

大熊町西方の山沿いを郡山市に向かう国道288号線の愛称。山間部を通る道路で、春には新緑、秋には紅葉がドライバーの目を楽しませた。



よ

よさこいに
こいのぼり舞^まう
おうちゅうせい
大中生

大熊中学校生徒によるよさこい

町民から提供された鯉のぼりの生地で作った衣装を身にまとい、大熊中学校女子生徒が元気によさこいの舞を披露している。



ら

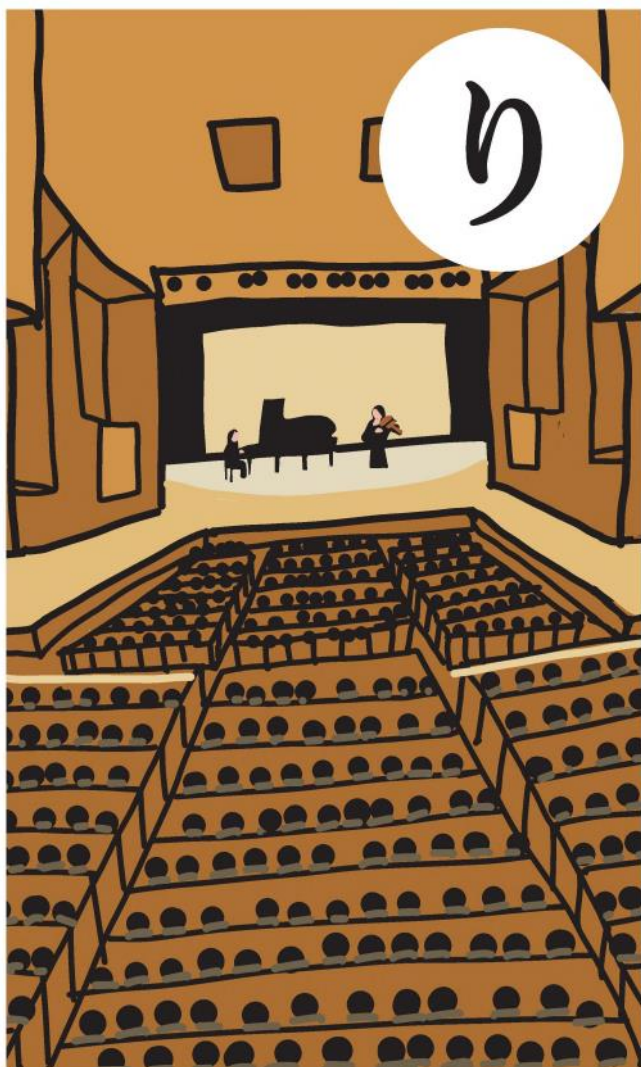
ラッパ隊^{たい}

意気高^{い き たか}らかに

出初式^{でぞめしき}

出初式

毎年正月初めに駅前商店街をラッパ隊の号令で消防団・婦人消防隊が行進検閲をうけ、役場庁舎前での一斉放水で無火災を願った。



り

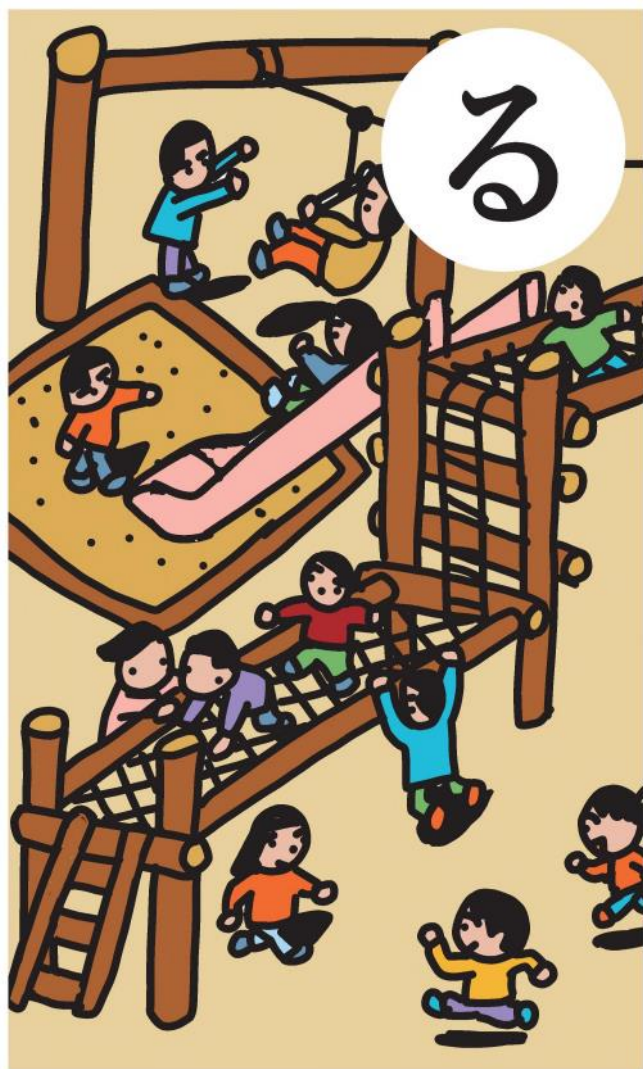
立派^{りっぱ}だな

ホールが自慢^{じまん}の

文化セ^{ぶん}ンター

文化センター

「学習と文化の殿堂」として、地域の生涯学習の中核的役割を果たしていた。誰でも生の演奏や歌、演劇等を通じて身近に文化を感じとれる施設。



る

ルンルンと

みんな笑顔で

わんぱく広場

わんぱく広場

中央台生活環境保全林の中にあったわんぱく広場。アスレチックや公園など、休日になると家族みんなで楽しんでいた。



れ

れ

列をなし

ワイワイ

ガヤガヤ

集団登校

集団登校

小学校の児童は、毎朝指定の場所に集合し、班長が指揮をとって集団登校していた。

ろ

ろろん
ろろんと
鳴る海は
甘夢をみかせる
太平洋……



ろ

ろろんで

はじ
始まる

くま
しょう
こう
か
熊小校歌

熊町小学校

熊町小学校は海に面した熊町地区にあり、太平洋の波の音をろろん、ろろんと表現し校歌で歌われている。

わ



わ

わ
我が町の

とく
さん
ひん
特産品

なし
梨・キウイフルーツ

ワインもね

大熊町の特産品

自然の香りと甘さがいっぱいの梨、そして「材々・ビーナス」と名付けられたキウイフルーツ。また限定生産されていた梨とキウイを原料としたワインが有名だった。

を



を

馬^{うま}の背^せを
ある 歩く釣^つり人^{ひと}
いのち 命^{いのち}がけ

馬の背岬

馬の背は熊川海水浴場の南側にせり出した、文字通り馬の背のような形に続く断崖。夜釣りが人気で、帰りは恐る恐る暗闇の中を引き返した。

ん



ん

「んだんだ」と
おも 思^{おも}わずうなずく
おお くま べん 大熊弁

「んだんだ」

「そうだそうだ」という意味。
同意をする際に使われる。

このカルタについて

大熊町は、2011年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故により、全町民が避難を余儀なくされました。

このおおくま・おらほのカルタは、「帰りたいけれど帰ることができない」そんな切ない思いの中、町民の皆さんから届けられた読み札をもとに作成しました。カルタを通じて、大熊町の思い出や生活などを語り合い、若い世代に『ふるさと大熊町』を伝えていくきっかけとしていただければ幸いです。

おおくま・おらほのカルタ
実行委員会